

2011-B					
拠出金・基金の名称:		国際半乾燥熱帯作物研究所拠出金			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
拠出先の国際機関名: 国際農業研究協議グループ(CGIAR)/国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT)					
【所管官庁担当局課・室名】: 農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】: 研究プロジェクトの実施					
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成23年度	26,152	294	-	1米ドル = 89円	100
平成22年度	46,913	499	-	1米ドル = 94円	100
平成21年度	55,020	534	-	1米ドル = 103円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 地球規模の気候変動など、農業生産環境が大きく変化する状況の下、食物の多くを輸入に頼る我が国が世界的な食料安全保障に貢献することは大きな課題である。IPCC第4次評価報告書によると、気候変動の拡大により、特に低緯度地域の途上国で農業生産性が大きく低下することが予想されている。 ICRISATは、半乾燥熱帯の農産物の研究センターとして設立された。従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施して熱帯作物の生産性向上に資する成果が生まれている。近年、干ばつによる穀物の不作が頻発し、飢餓・貧困に苦しむ人口が多い熱帯半乾燥地域での持続的食料生産に資する研究の重要性が高まっており、こうした地域の主食であるマメ類や雑穀について研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。 ICRISATへの我が国の拠出金事業として、作物の持つ生物的硝酸化成抑制(Biological Nitrification Inhibition、BNI)能力に注目した研究プロジェクトがある。農地に施肥された窒素の大部分は、硝酸化成(硝化)の作用を受け、土壌中で移動しやすい硝酸となり、地下水をはじめとする水系の汚染・富栄養化の原因となり、また硝化の過程で施肥窒素の一部が温室効果ガスの1つである亜酸化窒素となり、大気に放出される。一部のソルガムは、BNI能を強く持つことが知られており、我が国の拠出により、その効果が現場圃場レベルで明らかになってきた。 我が国としても上記の研究プロジェクトをはじめとしたICRISATの取り組みを高く評価しており、人的貢献を含めて可能な協力を行いたい。 本プロジェクトは拠出にあたり研究計画書・予算計画書等についてプロジェクト開始前に事前に当方で確認し、最終的に承認をするプロセスを設けることにより、農林水産省としての意見が反映されている。					